

群馬県立前橋工業高等学校（定時制） 学校評価一覧表 （令和6年度版）

(別紙様式)

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目		自己 評価	外部 アンケート等			
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	(1) 定時制工業高校としての特色を理解して、自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は、80%以上である。 (2) 工業の基本である「ものづくり」に積極的に取り組んでおり、座学や実習内容に満足している生徒が80%以上である。 (3) 生活体験発表文に全校生徒が参加し、作文の提出率は100%である。	シラバスや学校生活案内を活用し、学校の特色を理解させるとともに帰属意識を高めさせる。 「ものづくり」への興味関心を高め、生徒が授業へ積極的に取り組めるような授業展開をする。 生徒の今までの生活を記録し見直すことで自己成長のきっかけとなる定時制通信制の重要な学校行事という共通理解のもとで、全職員・全校生徒で取り組み、上位大会出場を目指す。	A	A	A	定時制という生活スタイルの中で、多くの生徒は学校生活を充実させており、4学年は全員希望した進路実現を果たした。定時制工業高校の魅力を発信し続け、生徒数を確保しなければならぬ。 基礎基本を重視し、生徒が積極的に取り組めるよう分かりやすい授業展開としている。その中で、ものづくりに興味関心をもち「総合的な探究の時間」の目的に則った内容にしていける必要がある。 生活体験発表大会という行事において、自己を見つめなおし、これからの成長の基盤をつくる良いきっかけとなった。学校代表者は県大会において立派に発表することができた。	・どのようなかたちであっても、全員が進路先を決定されたことは、大変喜ばしいことと感謝申し上げたい。授業の中で実施していると思うが、日本における社会保険制度の仕組みを、より優しく説明して頂くことをお願いしたい。 ・内容はいずれにしても生活体験発表文が全生徒から出され、しかも100%の提出は驚きました。そのような取り組みは生徒の気持ちやそれらに対する教員の生活指導に対する対応が具体的に変わると思うし、悩みのある生徒にとっても解決策の一つになりえると思う。中・高の自殺者が多い中において楽しい高校生活は基本中の基本。まずはそこからでしょう。 ・「学校が好き」と通えるのは、とても素敵だと思います。
	2 専門高校として、職業人材育成のための取り組みをしていますか。	(4) あいさつ・礼儀等の指導が図られ、80%以上の生徒が校内で実施している。 (5) 安全意識を高めるため、作業着の着用、授業の準備・片づけが積極的にできる生徒が80%以上である。	職員から積極的に生徒へ挨拶や声かけ、対話などを行い、礼儀を促す。 実習前の準備・後片づけを自主的にさせ、実習着の着用目的を説明し安全意識を高める。	B	A	A	授業だけでなく廊下でも自然とあいさつができる生徒が多い。社会人となる準備として自らコミュニケーションを取る大切さをこれからも指導していきたい。	
	3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	(6) 生徒の実態に応じた学習指導を実施し、学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が70%以上である。 (7) 分かる授業の展開に工夫があり、授業の理解度は70%以上である。	到達目標に達しない生徒について、授業前・放課後等利用し補習授業を実施する。 言語活動の充実に努め、生徒が積極的に参加できる雰囲気づくり、分かりやすい授業の工夫を行う。	A	A	A	成績が心配される生徒に対して、各教科担当者が個別課題や補習等で対応している。成績会議後に成績不振者指導を行い、個々に学習計画表を作成・提出させて取り組み環境を整えた。進捗確認を定期的に行う必要がある。 授業改善コーディネーターを中心に、ICTを利用した授業展開等の校内研修を実施した。ただ、教科によりICTの利用がしづらいところもある。ICT機器の利用に関わらず各教科担当は分かりやすく丁寧な指導を心がけている。	
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	4 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	(8) 到達度の低い生徒に対して各教科で対策を考え、課題等の完了率は90%以上である。	補習や課題提出など対策を取り、速やかに指導を行い自覚を促す。また、授業中においても習熟度別に対応している教科もある。	A	A	A	普通教科では、授業中の小テストや学習プリント等を使用し習熟度に応じた指導に当たっている。また、専門教科においては実習における作品製作や製図課題など提出期限の厳守や完成度を高める指導を行った。	・普通教科の実施に当たっては、習熟度に応じた指導の実施がなされていることは評価したい。 ・課題別発表に対する取り組みが遅れのある生徒に対しての指導や助言による発表を見る中でクオリティの高さを感じていた。仲間同士の人間関係や適切な指導が見えてくる。また、アルバイトや仕事を抱えている生徒に対して遅れをとらぬ様指導し完成度を見る中で十分な指導がされ生徒と共に作りの上げた内容は高いものがあつたと思う。 ・個々にも対応した指導が「学校が好き」につながるのでしょ。
	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	(9) 生徒会主催行事に積極的に生徒が参加し、生徒の70%以上が満足している。 (10) 部活動加入生徒が部活動に積極的に参加し、70%以上が満足している。	生徒会役員を中心に生徒が自己有用感を感じられる行事を計画・実行する。 部活動紹介で入部を積極的に働きかけたり、自分に適した部活動選択ができるよう部活動体験入部期間を設ける等、部活動への参加を促す。	A	A	A	生徒会役員が行事の立案から運営まで自主的に活動を行っている。生徒会活動全体が円滑に運営できるよう、職員は生徒に適宜助言を行いながら支援している。生徒は、自己有用感をもって活動に取り組むことができています。 新入生対象の部活動紹介は、入部への動機付けとなっている。全国大会に出場し顕著な成績を収めた生徒もいれば、複数の部活動に入部して、学年を超えて友好を深め楽しんでいる生徒もいる。部活動を生徒の活躍の場の一つとして位置づけ、今後も入部を働きかけていく。	
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	(11) 学校と緊密に連絡を取り、生徒の怠慢による遅刻や欠席をなくす努力をしている保護者が80%以上である。 (12) 欠席・遅刻をしないように努力している生徒が80%以上である。 (13) 治療勧告を受けて、健康管理の必要性を認識している生徒は80%以上である。	保護者と学校とで生徒の情報を共有し、継続的に登校を促すことで、遅刻や欠席をなくす。 学校生活の中に自分の活動の場を見だし、充実した学校生活に向けて取り組めるよう喚起する。 集会での呼びかけや治療勧告書の再発行により、保護者・生徒への注意喚起を行う。	B	A	B	生徒の体調や精神面での変化をいち早く把握できるよう、保護者との連絡を密に取りあっている。欠席時の連絡は保護者からしてもらうことで、明確な理由なしに欠席する生徒を減らすことができた。 基本的生活習慣を身につけ、学業に意欲的に取り組めるよう、身なりを整えるなど生活面での指導を実践している。合わせて、問題行動の未然防止に向けて取り組みも行っており、生徒が安心して通学できる学校環境の整備に貢献できた。 治療勧告書の回収率は、例年とあまり変わらず目標率とは少し差がある。これは定時制の特性上、仕事をしているため医療機関にいかれないと言うことが考えられるので、長期休業前の生徒への働きかけが重要であると再確認した。	・生徒会の行事実施については、立案から運営まで生徒主体での実施であり、リーダーシップの養成やコミュニケーション能力の向上等に役立つことは、間違いないと考える。※評議員会の実施内容説明の中で伺った話であるが、保護者からの話として「うちの子は中学時代不登校だったが、定時制では欠席も少なく卒業までこれた。」と感謝の意を述べてくれた。この話である。これぞ定時制の大きな特色で有り、その生徒は「心身とも心地よい状態」で定時制での学校生活を送れた証であると思う。よって大絶賛したい。 ・定時制の生徒は全日制の生徒と比べて生活環境の違いから生活に悩みを持つ人が多いと思う。家庭訪問、三者面談、授業公開、研修を通して適切な指導から来校する保護者も多く参加しているとのことには非常に評価される。また、その事を生徒情報収集し共有化し対策に生かし、不安、悩みの早期解決やいじめ防止は評価が高いと思う。 ・欠席等の連絡も電話連絡なのですね。そこでもコミュニケーションが取れていて手厚さを感じます。
	7 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	(14) 自死防止・いじめ防止に努め、いじめの解消率は100%である。	生徒観察を充実させ悩み相談窓口等を周知し、年3回のいじめアンケートを実施し、未然防止、早期発見、早期解消に努める。	A	A	A	生徒観察、生徒面談、アンケート等による生徒情報の収集や職員間の生徒情報の共有等が、生徒の不安や悩みの早期解消、いじめ防止につながった。	
	8 交通安全教育を推進していますか。	(15) 交通用具利用者（ほぼ全員）に対し、車両点検を年3回実施し、安全指導・安全管理を徹底する。	年3回の車両点検、交通安全教室を行い交通事故防止に努める。自転車ヘルメット着用を促進する。	B	A	A	車両点検、交通安全教室に加え、登下校時指導による呼びかけ等、年間計画に基づいた継続的な指導が、生徒の交通安全への意識付けにつながった。道路交通法の改正については、生徒への迅速な情報提供を行った。ヘルメット着用への意識も定着しつつある。	
	9 計画的な指導を行っていますか。	(16) 仕事と勉強を両立させようと努力している生徒が80%以上である。 (17) 生徒の生活改善や進路相談のため、保護者との面談を年1回以上実施している。	望ましい就業指導を実施し、学業と両立できるようバックアップする。 家庭訪問、三者面談、授業公開、研修会等、保護者が来校しやすい環境を整える。	B	B	B	10月現在、就業率は50%で、新しくアルバイトを探している生徒や、自分に合わない辞める生徒など、様々な生徒がいる。アルバイトやインターンシップを勧め、進路への意識を高めたい。	
	10 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	(18) 進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。 (19) 学校行事をとおしてキャリアパスポートを活用し、将来の生き方・在り方を考える機会を、年3回以上設けている。	進路実現に役立つ情報提供や学校校外での資格など促していく。 学校行事後に感想・振り返りとして記入させ、基礎的・汎用的能力（社会形成・自己理解・課題対応能力・キャリアプランニング能力）を自ら成長させるよう促す。	A	A	A	4年生は1学期期末テスト期間中に、2、3年生は夏季休業中に三者面談を行っている。1年生は家庭訪問を行っており、また、公開授業時に来校していただける保護者が多い。 進路講話、進路ガイダンス、卒業生からのひとこと、職業リディネステストなど、進路への意識を高めるきっかけになる行事を行っているきたい。	
Ⅳ 生徒の主體的な進路選択について適切な指導をしていますか。	11 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	(20) 家庭や地域との情報共有や相互の信頼関係を構築出来るよう「学校公開」を年3回以上実施する。 (21) GSN等のネット媒体のさらなる活用とともに学校から発信するホームページは少なくとも月1回以上は更新する。 (22) 科目履修生や専科生等社会人を受け入れている講座がら科目以上ある。	入学希望者が減少する中、関係各所と連絡を密にとりつつ魅力的で分かりやすい学校説明会を実施していく。 適宜GSN等を活用して行くが、紙ベースの連絡手段も残しつつ、連絡に遺漏がないように努める。 積極的に報活動を進進し広く希望生徒を受け入れ、かつきめ細やかな指導をしていく。	B	B	B	中学校訪問・学校説明会は昨年に引き続き計画通り実施し、一定の成果を収めることが出来た。一方、授業公開は1年生を除き参加者はごく限られたものとなった。今後、参加者が増えるような方策を考えていく必要がある。 主な行事ごとにホームページを更新することが出来た。また、緊急連絡等GSNを活用し、各家庭に連絡をすることが出来た。2029年度より現行のホームページのプラットフォームが使用できなくなるので次年度よりそれに対応すべく準備に取り掛かりたい。	・ここ数年専科生希望者がいないのがなんとも寂しい話である。現役の生徒にしてみれば、現役社会人が身近にいることは、かなりのメリットであり、企業事業主に対する定時制のPR拡大をお願いしたい。 ・中学校訪問や学校説明は前から各学校が行っていることは承知しているが、社会人講師からの助言等による講演またその事による将来の進路を始め、人としての生き方も考えた取り組み等、正に社会人づくりがこの時期から始まっていることに感銘を受けた。 ・中学校訪問、良いですね。
	12 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。	(23) 保護者や地域社会の人を講師とした講演会などを年3回実施している。	地域で活躍する社会人講師を招き講演をいただくことで、地域の一員として参画する意識を高めさせる。	A	A	A	各行事において、地元の講師を招き講演していただいている。講師の経歴や生き方を学び、職業選択に活かすことができた。また、キャリアパスポートを作成し将来の進路や生き方なり方を考えるきっかけとしたい。	
	13 ICTを活用した指導を行っていますか。	(24) ICTを活用した授業に生徒の80%以上が満足している。	各教科で適宜学習用端末を利用し、ICTの活用を充実させる。	A	A	A	視覚的・体験的な作業効果により、興味関心をさらに高めて情報社会に対応できる授業展開を行った。ただ、教科によりICTの活用が難しいところもあるようだが適宜利用してより分かりやすい授業展開をしていきたい。	
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	14 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	(25) ICTを活用したアンケートに生徒・保護者の80%以上が満足している。	各種アンケートを学習用端末やスマートフォンなどを利用することで、回答の簡易化の周知と、集計の効率化を図る。	B	A	A	学校評価のためのアンケートの案内については、メール案内だけではなく紙媒体での案内も必要であった。昨年度の実反省を生かし双方で周知した結果、回答率が上がった。	・メール案内だけではなく、紙媒体での案内に気づいていただいたことは大変ありがたく思う。 ・現在はスマホやパソコン等ITを活用しての企業が大半で今では当たり前の社会になっています。課題別の発表を見る中でそれらを苦心して発表の成果が生徒にとってもプラスになっていくと思う。また、それらに対して生徒・保護者からの満足度80%以上と有り、今後の活躍に期待します。 ・紙媒体も必要な時が有るのはとてもうなずけます。
	15 ICTを活用した指導を行っていますか。	(26) ICTを活用した授業に生徒の80%以上が満足している。	各教科で適宜学習用端末を利用し、ICTの活用を充実させる。	A	A	A	視覚的・体験的な作業効果により、興味関心をさらに高めて情報社会に対応できる授業展開を行った。ただ、教科によりICTの活用が難しいところもあるようだが適宜利用してより分かりやすい授業展開をしていきたい。	